

ウグイス



4月中頃から澄川の作業日では廃バスの奥辺りを縄張りにしているウグイスの声がしきりであります。

「梅の小枝でウグイスが、春が来たよと鳴いてます、ホーホー、ホケキョ、ホーホケキョ」という童謡をつい口ずさんでしまいます。鳥音痴の方でもウグイスだけは声だけでもわかるでしょう。すごく良く透る声なのでかなり遠くても聞こえます。近くで鳴かれると手がとどく所にいるように感じます。ところがです。動体視力が優れているか、辛抱強く鳥影が動くのを待つかであれば声の主を見つけることが出来ません。「声はすれども、姿は見えず」という言葉は昔の人がウグイスのことを指していったものなのです。ウグイスはおのれの姿は見えにくいことを知っているかのように、「どこにいるのか捜してごらん」とからかわれているような気すらいたします。鳥のさえずりとしては単純で芸の無い部類と思いますが、声がよろしい。だからでしょう春を報せる声として古くから親しまれているのであります。

発見しにくい理由のひとつはその装いにあります。ウグイス色といわれる色がありますが、背側の薄緑色、腹側の薄々緑色ともうす汚れた感じの色でクマザサの葉や木の葉陰に紛れて見事な保護色となっております。分布は

全国的で知名度も抜群であります。梅を好むわけでもありませんが、古くから花札の図柄でなじまれてしまい。イメージが固定されてしまったのでありましょう。

ウグイス科として科を代表する鳥ですが、この科は48属279種もあると「世界鳥名事典」にあります。いずれの種も見つけにくい装いという共通点があります。他にもカッコウの仲間達に託卵させられることも共通します。この科の鳥達はカッコウ達の育ての親達なのであります。



5月8日の活動日は、4年前から試験栽培しているシイタケが大量に発生したのを収穫し、参加者全員で昼飯時に網焼きステーキにして食べました。肉厚の形の良いのを選んで一人あたり4~5個はあたったようです。雪に埋もれたままほったらかしの状態でよく発生してくれました。この冬の作業で伐採し、採材したホダ木に植菌作業に入りました。500本は出来るだろうと思います。除伐材の林外搬出を禁止されていますので、林内での活用の一環としてシイタケ栽培を行なうのです。今年は移動式炭化炉を助成していただきましたので、炭焼きもはじまります。いずれも売り物になるレベルではありませんが、会員内での消費でよいと思うのであります。